

知の市場

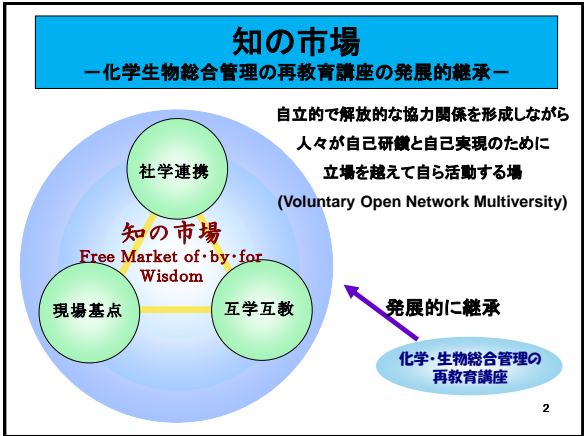
—理念と実践—

(2010年度版)

2011年3月1日

知の市場会長
増田優

第2回知の市場年次大会
於：早稲田大学西早稲田キャンパス



知の市場(共催・関連講座)

2011年度	全国30拠点	95科目相当開講
2010年度	全国31拠点	96科目相当開講
2009年度	全国23拠点	119科目相当開講

↑ 発展的に継承

化学・生物総合管理の再教育講座

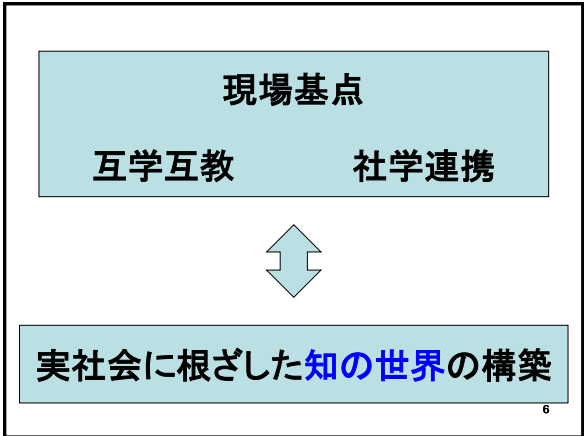
2004年度後期～2008年度

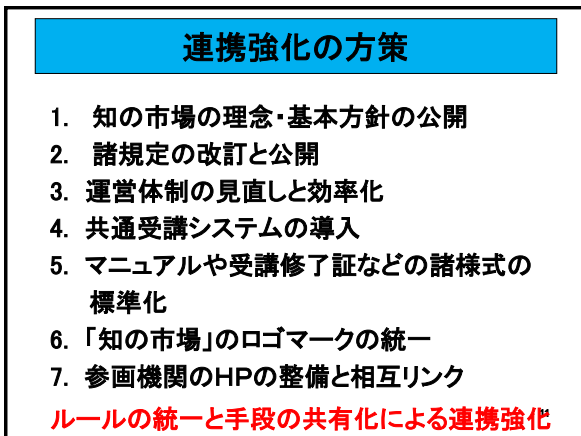
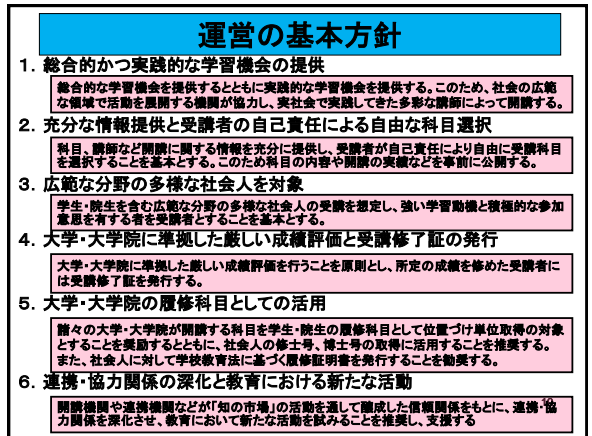
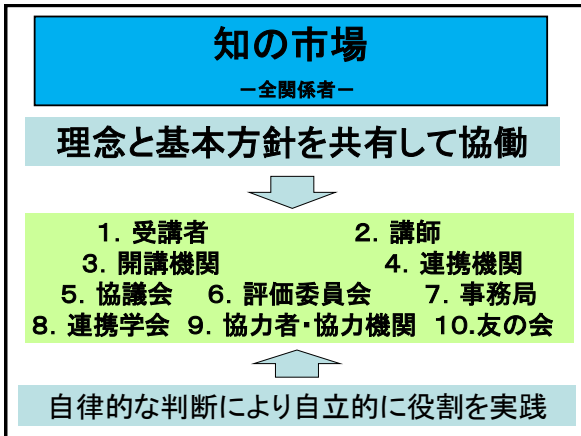
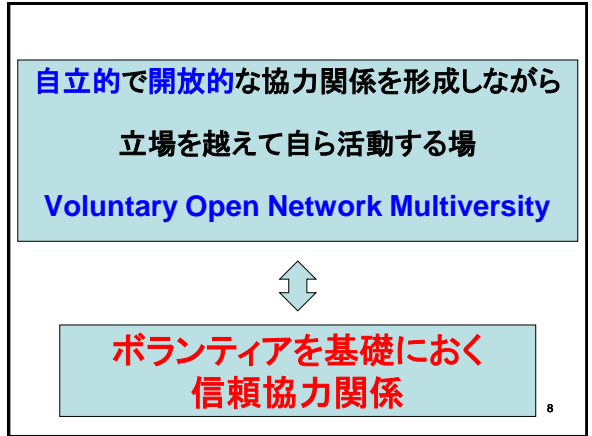
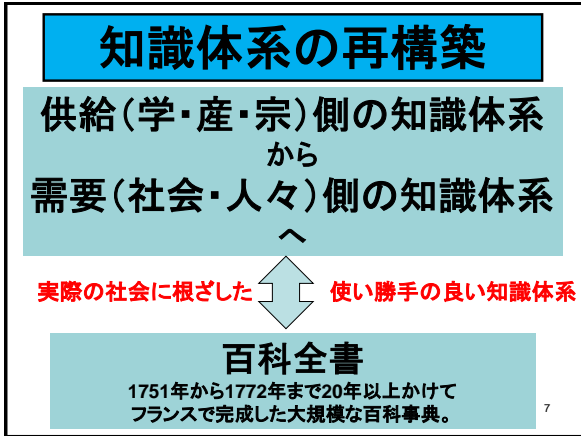
1. 連携した専門機関・実施機関 **6拠点**(46機関)
2. 開講科目 221科目 442単位相当 (年平均44科目)
3. 講師陣 **新たな教育のための社会インフラ** 1731名
4. 応募者6017名 受講者5957名 修了者3307名
5. 8単位相当以上修了者 220名
学校教育法による履修証明可能者

20単位相当以上修了者 **47名**
学校教育法による履修証明可能者

I. 理念と運営

4





講座運営用資料(規定、要領、マニュアル・様式)一覧 (抜粋)

規定	理念と運営	手段や様式の統一と共有化
	応募及び受講の条件に関する規定	
	応募方法に関する規定	
	受講にあたっての留意点に関する規定	
要領	成績評価と受講修了証等の発行に関する規定	
	奨励賞の授与に関する規定	
	知の市場 友の会規約	
	教材資料の作成と知的財産権の取扱いに関する要領作成方法	
マニュアル・様式	講義の準備と進め方に関する要領	
	受講者及び講師アンケートに関する要領	
	受講修了証の作成及び発行の手順に関する要領	
	科目資料等の保管方法に関する要領	
	シラバス様式	
	共通受講システムの使用方法	
	応募申込書	
	講師リスト	
小レポート原紙(アンケート文面含む)		
最終科目レポートの課題と提出について		
最終科目レポートの採点と判定について		
受講修了証の様式		

12

教育の基本方針

- 総合的な学習機会の提供** 大学院水準のしっかりとした教育
 社会においてそれぞれの立場で役割を果たす人材の育成に資するため、現代の社会と世界の動向を理解するために必要な広範な領域を学ぶ機会を提供
- 実践的な学習機会の提供**
 専門機関・実務機関、産業界、NPO・NGO、大学との連携により、実務経験を豊富に有する者が講師として参画し、実社会に根ざした学ぶ機会を提供
- 十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択**
 受講者の的確な科目選択に資するため、科目を分野別、水準別に分類して明示し、講義内容や講師などの情報、講座の計画と実績に関する情報など詳細な情報を提供したうえで、受講者自身が自らの必要に応じて自らの判断と責任で科目を選択
- 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価**
 応募動機の確認から始まり、講義毎に出席を確認し15回小レポートを提出。最終レポートを提出。大学・大学院に準拠した基準に従い、出席状況と最終レポートを評価して所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

13

総合的な学習機会の提供

—多様な社会人の幅広い要請に応える場—

実践的な学習機会の提供

2009～2011年度版

～多様な機関との連携による多様な協力関係の構築～

十分な情報提供と

受講者の自己責任による自由な科目選択

応募者の科目選択に資するための十分な情報提供
 科目の分野別・水準別分類
 講義内容や講師の詳細な情報を記した各科目のシラバス
 開講機関や知の市場全体についての講座の計画と実績

- 知の市場をはじめ、開講機関・連携機関などのホームページ
<http://www.chinoichiba.org/>
- メールによる案内
 現在及び過去の受講者や講師で構成する「知の市場友の会」へのメール配信
 開講機関・連携機関によるメール配信
 協力機関によるメール配信
- パンフレット、ポスター
 知の市場事務局による作成
 開講機関・連携機関による作成と配布
- 口コミ
 個人間の口コミ、上司や所属組織・教育部門からの指示・推奨、その他多様伝達など
- 報道
 新聞、雑誌の記事掲載など

16

～詳細な情報提供による 納得した上での受講～

科目の詳細:シラバス(例)

科目ID	科目名	科目の概要・目的・目標	科目の水準	講義の概要・目的・目標	講師名・所属機関名	講義日時
OT109	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT110	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT111	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT112	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT113	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT114	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT115	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT116	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT117	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT118	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT119	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00
OT120	食品の安全性と品質	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	基礎	食品の安全性と品質の確保に関する知識の習得と、食品の安全性と品質の向上に資する実践的スキルの習得。	山本 浩一 (千葉大学)	11月15日 18:00-20:00

* 詳細は、知の市場HP(<http://www.chinoichiba.org/>)をご覧ください。

共通受講システムによる受講者登録

受講科目の応募申込

共通受講システムによる受講科目応募申込

応募する科目の「申込受付中」をクリック

意欲ある受講者の参画

規約を読んで「規約に同意し、科目申込を行います」にチェック
応募動機を入力

大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

- (1)-1 毎回の授業毎に出席状況を厳格に管理
- (1)-2 毎回の授業毎に理解度確認のため小レポート提出
- (1)-3 科目終了時に、最終レポートを提出
- (2) 受講者の成績評価は、大学の学部・大学院の採点評価基準に準拠して評価。
 - ① 出席50点満点、レポート50点満点の合計で採点
 - ② 出席点は15回の出席で満点とし、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に応じて減点し、出席回数7回未満は履修放棄とみなす。
 - ③ レポート点は講義内容の理解度A、B、C、自らの考えや主張、論理性や特筆すべき点ごとに個別に評価し、加算する。
- (3) 所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付。

A(80~100点)、B(70~79点)、C(60~69点)を合格とし、
Aのうち特に優秀な者をSと判定。

²⁰ 大学院水準のしっかりとした教育

成績評価の基準

開講科目ごとに、受講者の出席状況と科目レポートの採点に基づき成績評価を行い、所定の成績を修めた受講者に対して科目ごとに受講修了証を授与することとし、採点および成績評価は大学の学部・大学院の成績評価に準拠し、下記の基準による。2011年度以降は出席点をより厳格化するとともにレポートの採点項目を改訂する。

記

- (1) 採点は、出席点と科目レポートの採点の合計とする。出席点、レポート点はそれぞれ50点を満点とし、合計100点満点とする。
- (2) 出席点は、15回出席した場合を50点(満点)に、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に応じて減点とする。
- (3) 科目レポートの採点は、レポートの内容を次の項目ごとに個別に評価し、加算する(50点満点)。
 - ① 講義内容の理解度A(講義内容の主要項目①の理解度)
 - ② 講義内容の理解度B(講義内容の主要項目②の理解度)
 - ③ 講義内容の理解度C(講義内容の主要項目③の理解度)
 - ④ 自らの考えや主張
 - ⑤ 論理性や特筆すべき点
- (4) 出席点とレポート点を合計した結果から、以下のように判定する。

A: 80~100点
B: 70~79点
C: 60~69点
D: 50点以下
N: 履修放棄

なお、Aの評定を得た者のうち、特に優秀な者をSとする。Sの評定を得る者は科目全体の人数の5%程度となることを目安に評価する。
- (5) 採点および評価の基準としてS、A、B、Cの判定を受けた受講者を合格とし、受講修了証を交付する。
- (6) レポートの採点は、原則としてレポートの講義を作成した科目担当の講師が行い、出席点を加味した判定を知的市場会長が確認する。

21

自己点検と外部評価

1. 受講者による講義評価

毎回の授業ごとに受講者に満足度、理解度、講義レベル、講師の話し方、教材の5項目について調査し、講師の自己点検と授業の改善に活用。
2. 受講者による科目評価

各科目の受講者に対して、受講するに至った背景や動機、満足度や理解度、授業の内容や科目の構成などについてアンケート調査を実施し、開講科目を客観的に評価して、科目の改善に活用。
3. 講師による科目評価

各科目の講師に対して、受講者、講座運営等に関しアンケート調査を実施し、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用。
4. 協議会と評価委員会による外部評価

協議会において相互に評価するほか、外部有識者によって構成する評価委員会を設置し、講座の運営、科目の構成などについて不断に評価し、改善²。

知の市場の構成

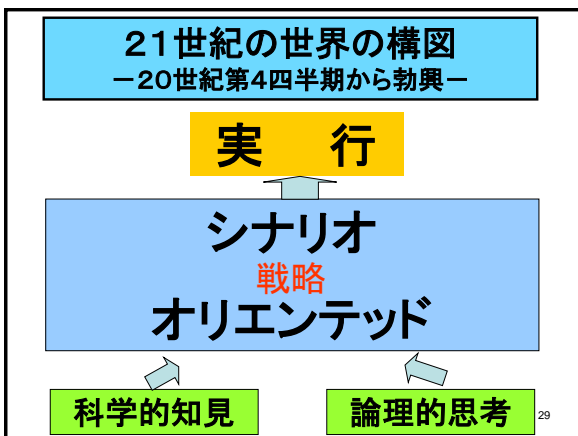
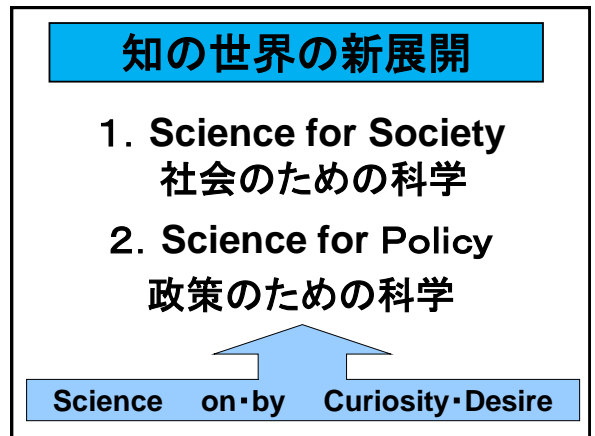
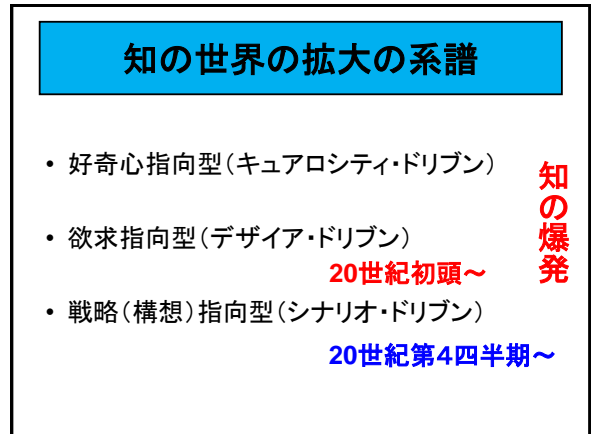
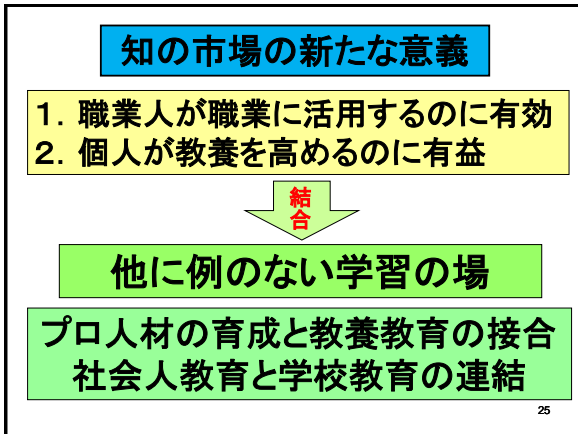
共催講座:
「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関が主催する。

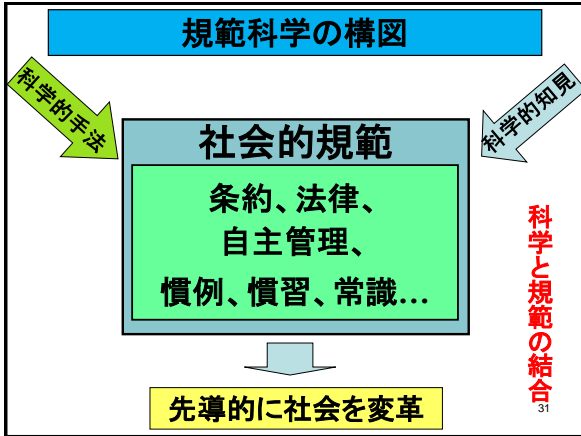
関連講座:
「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつ諸般の状況を踏まえて個々の主催者が自らの主体性と責任のもと柔軟かつ弾力的に運営する。
再教育講座や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動。

多様な事情に応じた弾力性の確保

23

Free Market-of-by-for Wisdom		知の市場		Voluntary Open Network Multiversity	
				2011年度	
共 催 機 関	元の家	[主催] 知の市場	[協力] 協力機関	開講先	評価委員会
	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	I. 教養部	名古屋大学 総合理工学研究所
	日本メカニクスネットワーク	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		名古屋大学 総合理工学研究所
	主催者協会	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	II. 専門部	早稲田大学 総合理工学研究所
	製品評価技術基盤機構	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	名古屋安全センター	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	III. 研修部	早稲田大学 総合理工学研究所
	主催者協会	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	IV. 大学・大学院	早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
	労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所		早稲田大学 総合理工学研究所
労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 総合理工学研究所		
労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 総合理工学研究所		
労働科学研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 機械科学総合研究所	早稲田大学 総合理工学研究所		





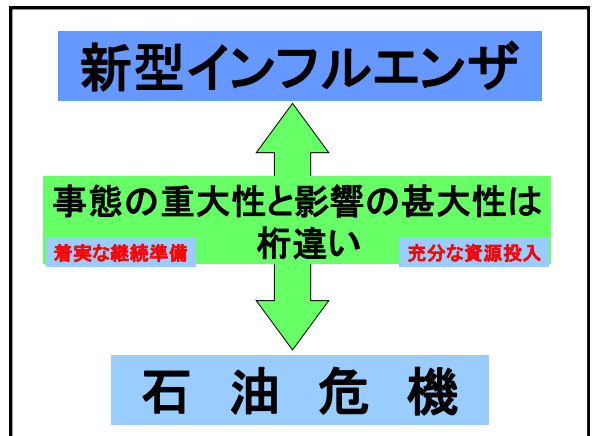
- ### シナリオ(戦略)指向型の新たな事象 — 20世紀 第4四半期 —
1. 化学物質の総合管理
 2. オゾン層の保護
オゾン層破壊物質の管理
 3. 地球温暖化の防止
温暖化係数を持つ化学物質の管理
 4. 組換え体の管理

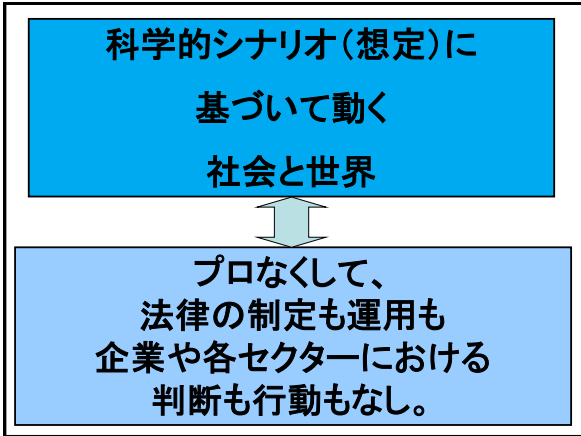
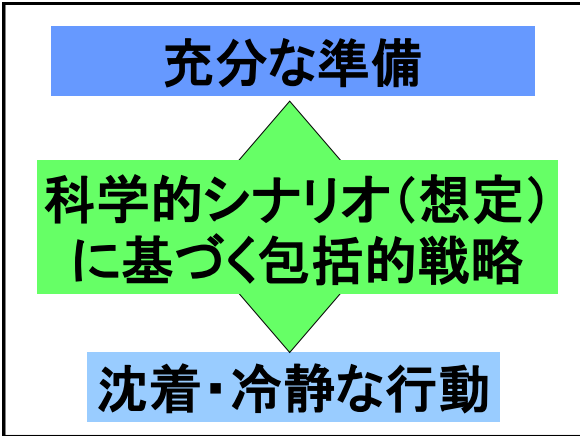


アジェンダ21第19章の成果

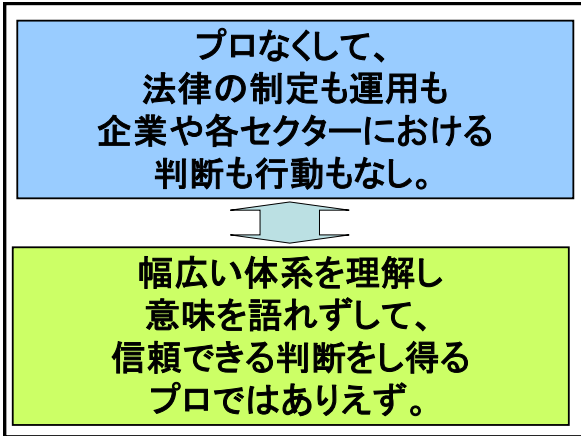
1992	国連環境開発会議(UNCED)	O E C D の 取 り 組 み
1994	化学物質管理政府間フォーラム(IFCS) ・アジェンダ21実現のための組織	
1998	有害化学物質の国際貿易に関する条約 (ロッテルダム条約:PIC条約)	
2000	IFCS第3回フォーラム パイア宣言 ・「2000年以降の優先行動」の採択 ・2002年までに各国はナショナルプロフィールを作成	
2001	残留性有機汚染物質に関する条約 (ストックホルム条約:POPs条約)	
	有機スズ系船底塗料の禁止条約(TBT条約)	
2002	UNEP管理理事会 国際的な化学物質管理の戦略的アプローチに関する採択 →SAICM作成の取り組みが開始される	

オゾン層保護、化学兵器、麻薬、温暖化防止等の数々の条約

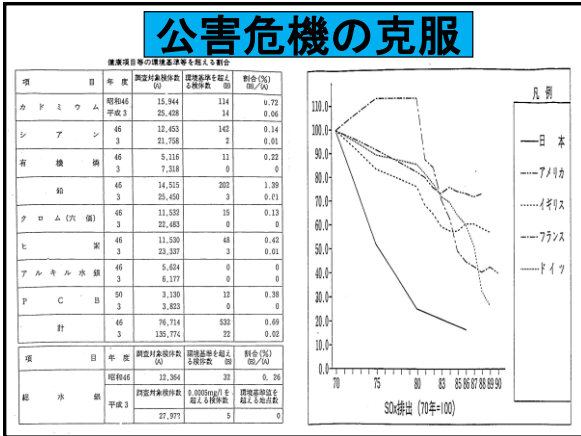




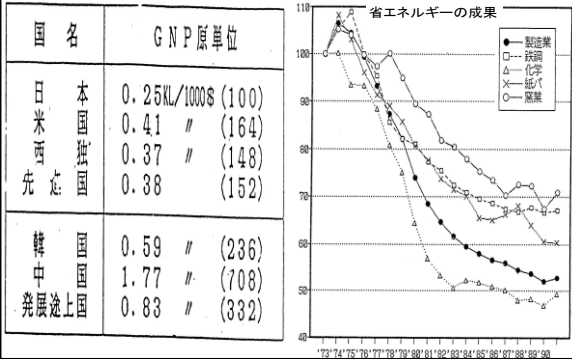
プロ人材育成は現状でよいのか??



プロ人材育成の強化だけでよいのか??

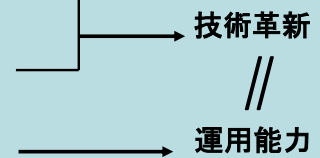


石油危機の克服



石油危機と公害危機を克服した3大要因

1. 技術開発
2. 設備投資
3. 人材育成



膨大な数の人材を広く養成

例1. 公害防止: 多様な分野、数十万人

例2. 省エネルギー: 広範な分野、数十万人

社会を成り立たせる キャッチボール

投げ手(プロ)と受け手(一般)の
相互作用

全体は弱い環の水準に収束



プロ教育と教養教育は不即不離

知の市場の目指す目標(1) —プロ人材育成と教養教育の接合—

企画・実施する
プロ人材の育成

理解を深める
教養教育の充実

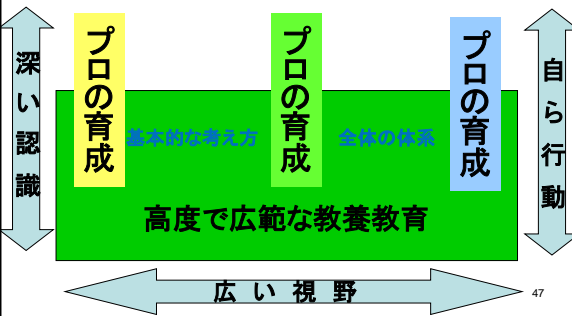
接合

知の市場

46

知の市場の教育理念

—プロ人材育成と教養教育の接合—



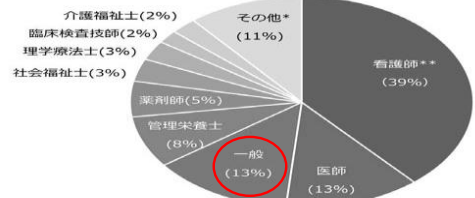
47

プロ人材育成と教養教育の融合の実例

—名古屋市立大学 医療・保健学びなおし講座—

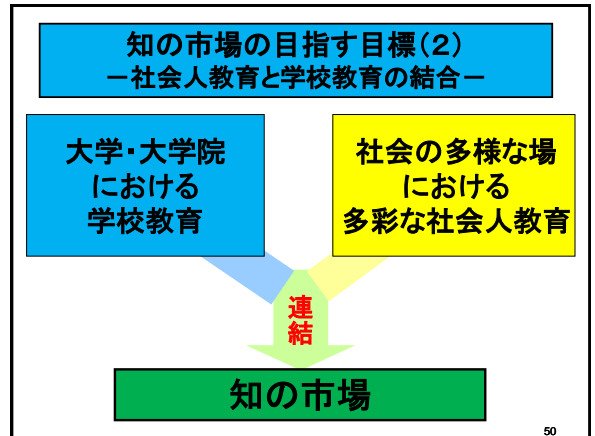
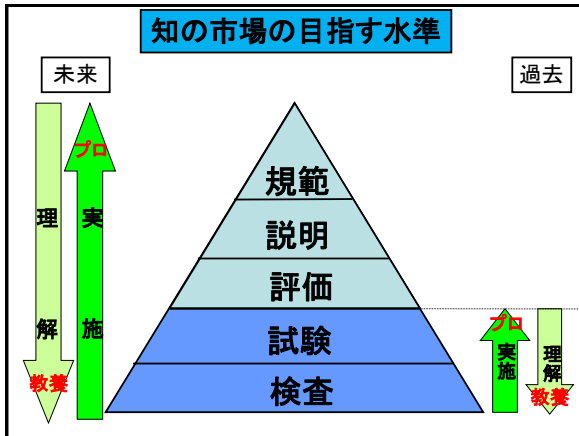
国家資格を有する医師・看護師などとともに学ぶ一般市民

双方に有益かつ有効な場の創造



(総受講者数202名)

その他*: 小中高養護教諭、鍼灸師、ケアマネージャ、ホームヘルパー、臨床心理士、健康運動指導士、助産師、診療放射線技師、柔道整復師、作業療法士ほか
看護師**: 保健師、准看護師、産科看護師を含む



社会人教育から学校教育への展開(2011年度)

社会人教育の科目が
同時に大学・大学院教育に活用されている事例

社会人教育としての科目 科目No. 科目名	大学・大学院教育としての 科目名	実施大学・大学院
FH433 地域産業のリスク管理学	地域産業のリスク管理学	福山大学大学院 工学研究科生命 工学専攻
FH412 栄養リスクの総合管理学	栄養リスクの総合管理学	
CT514 特許情報活用論	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
CT531 国際石油論		
CT541 金融特論2		
CT133 化学物質総合経営概論		
CT551 知的財産権論		
安全学特論	安全学特論	明治大学大学院 理工学研究科 新 領域創造専攻
製品・機械安全特論	新領域創造特論3	

社会人教育から学校教育への展開(2010年度)

社会人教育の科目が
同時に大学・大学院教育に活用されている事例

社会人教育としての科目 科目No. 科目名	大学・大学院教育としての 科目名	実施大学・大学院
FH433 地域産業のリスク管理学	地域産業のリスク管理学	福山大学大学院 工学研究科生命 工学専攻
FH412 栄養リスクの総合管理学	栄養リスクの総合管理学	
CT302a 科学と社会事例研究1	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
CT531 国際石油論		
CT302b 科学と社会事例研究2		
CT471 金融特論1		
安全学特論	安全学特論	明治大学大学院 理工学研究科 新 領域創造専攻
製品・機械安全特論	新領域創造特論3	

社会人教育から学校教育への展開(2009年度)

社会人教育の科目が
同時に大学・大学院教育に活用されている事例

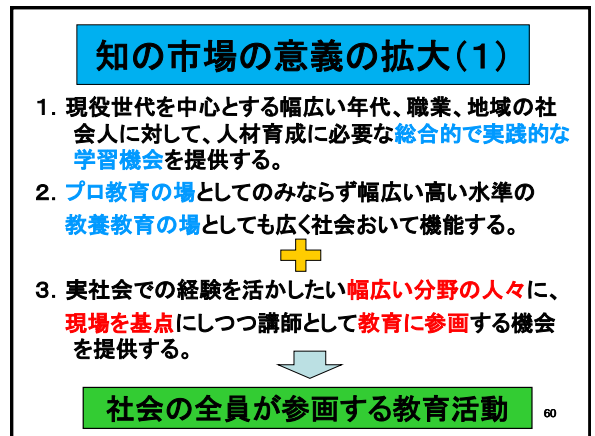
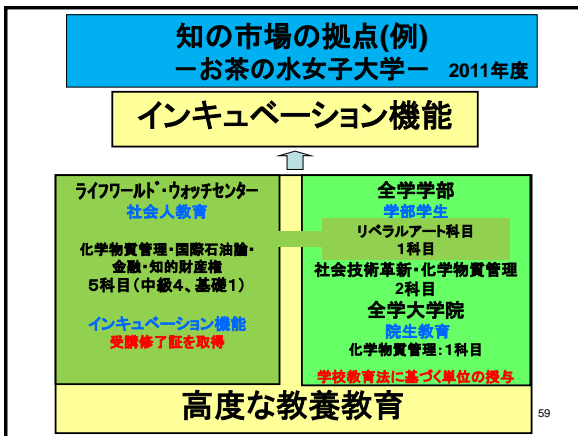
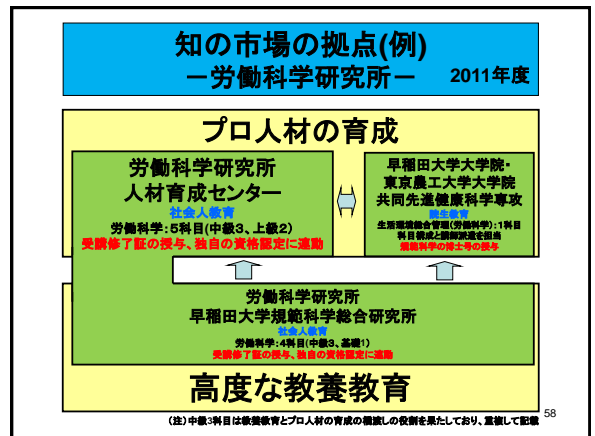
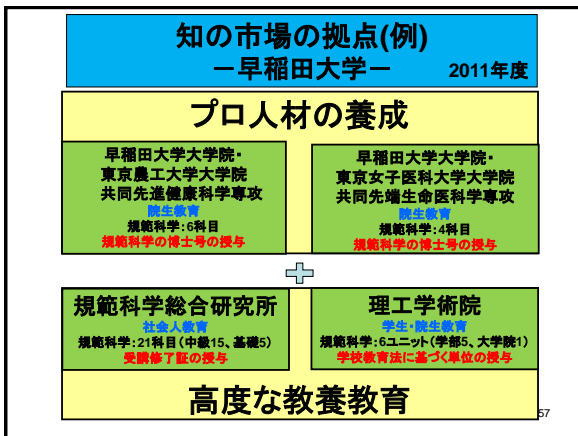
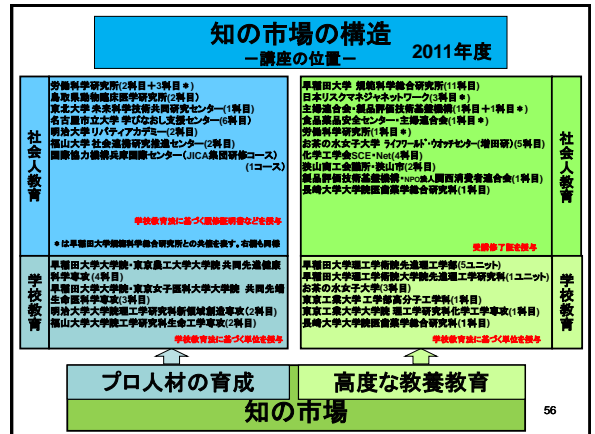
社会人教育としての科目 科目No. 科目名	大学・大学院教育としての 科目名	実施大学・大学院
FH132-4,5,6 化学生物総合管理演習 4, 5, 6	化学・生物総合管理学Ⅰ	福山大学大学院工学研 究科生命工学専攻
FH132-1,2,3 化学生物総合管理演習 1, 2, 3	化学・生物総合管理学Ⅱ	
CT123 ナノ・アスベスト事例研究	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
CT302 科学と社会事例研究		
CT442 医薬品情報特論		
CT451 金融と環境特論		
MT443a 安全学特論	安全学特論	明治大学大学院 理工学 研究科 新領域創造専攻
MT443b 製品・機械安全特論	新領域創造特論3	

**社会人教育から学校教育への展開
(2011年度、2010年度)**

社会人教育の内容や講師が
大学・大学院教育に活用されている事例

科目名	実施大学・大学院
化学物質総合管理学	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先 進健康科学専攻
感染症総合管理学	
食農環境総合管理学	
生活環境総合管理学	
リスク評価学	
ハザード評価学	早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同生命医科学専攻
化学物質総合管理学	
リスク評価学	
ハザード評価学	
感染症総合管理学	

社会人教育から学校教育への展開 (2010年度、2009年度)	
社会人教育の内容や講師が 大学・大学院教育に活用されている事例	
科目名	実施大学・大学院
生命医科学ゼミナールⅡ	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
生命科学概論A(経営・資源・社会工学)	
生命科学概論A(建築・電子工学)	
生命科学概論A(総合機械1,2)	
生命科学概論A(化学・応用化学)	
生命科学概論B(生命医科)	早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究所
先端バイオテクノロジー特論C	
社会技術革新学特論	明治大学大学院 理工学研究所 新領域創造専攻
化学物質総合管理学特論	お茶の水女子大学
安全管理概論	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
化学物質総合管理学	東京工業大学 工学部 高分子工学科
社会技術革新学概論	東京工業大学大学院 理工学研究所 化学工学専攻
資源・エネルギー・安全論	



知の市場の意義の拡大(2)

教育を本来任務としない、或いは、
従来、教育に縁のない個人や組織が、
自発的に教育に参画し自主的に活動



津々浦々で諸々の役割を担う
社会の現場の全てが教育の現場としても
それぞれ多彩な輝きを放つ



真の教育立国=全員参画による教育

61

II. 2009・2010年度の実績と 2011年度の計画

62

開講機関—2011年度共催・関連講座—

30機関
+31機関

共催講座開講機関 14機関	関連講座開講機関 16機関
早稲田大学 規範科学総合研究所	名古屋市立大学大学院 医学研究科 (健康科学講座オープンカレッジ)
日本リスクマネジメントネットワーク*	
主婦連合会・製品評価技術基盤機構*	名古屋市立大学 学びなおし支援センター
食品薬品安全センター・主婦連合会*	明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻・安全学研究科・リハビリケアセンター
労働科学研究所*	福山大学 社会連携研究推進センター
労働科学研究所	長崎大学大学院歯学部歯学総合研究科(専門種)
お茶の水女子大学 ライフワード・ウオッチセンター(増田研究室)	国際協力機構兵庫国際センター
化学工学会SCE・Net	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
鳥取県動物臨床医学研究所	早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科
狭山商工会議所・狭山市	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻
製品評価技術基盤機構・NPO法人関西消費生活協会	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先端生命医科学専攻
主婦連合会・製品評価技術基盤機構	お茶の水女子大学
東北大学未来科学技術共同研究センター	明治大学大学院 理工学研究科 新領域創造専攻
放射線医学総合研究所 (産業医科学 産業保健学部 環境マネジメント学科)	福山大学大学院 工学研究科生命工学専攻
	東京工業大学 工学部 高分子工学科
	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学科
	長崎大学大学院歯学部歯学総合研究科(大学・大学院種)

*:早稲田大学規範科学総合研究所との共催で開講

連携機関—2011年度共催・関連講座—

39機関
+34機関

国立感染症研究所	早稲田大学 規範科学総合研究所
製品評価技術基盤機構	お茶の水女子大学 ライフワード・ウオッチセンター(増田研究室)
食品薬品安全センター	東北大学 未来科学技術共同研究センター
労働科学研究所	名古屋市立大学 大学院 医学研究科
鳥取県動物臨床医学研究所	名古屋市立大学 学びなおし支援センター
放射線医学総合研究所	福山大学 社会連携研究推進センター
国際協力機構兵庫国際センター	明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻
日本獣医師会	長崎大学 大学院歯学部歯学総合研究科
日本リスクマネジメントネットワーク	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
主婦連合会	早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科
狭山市	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻
狭山市教育委員会	早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先端生命医科学専攻
相模ソリューション	早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻
武田薬品工業	お茶の水女子大学
ネオテック/ロジ	福山大学大学院 工学研究科生命工学専攻
三菱UFJトラストビジネス	東京工業大学 工学部 高分子工学科
日高東亜国際特許事務所	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学科
狭山商工会議所	
化学工学会SCB・Net	
三洋化成工業	

64

新規の開講

—2011年度共催講座—

1. お茶の水女子大学LWWC(増田研究室): 4科目(東京都)
2. 化学工学会SCE・Net: 2科目(東京都)
3. 狭山商工会議所・狭山市: 2科目(狭山市)
4. 早稲田大学規範科学総合研究所: 2科目(東京都)
5. 労働科学研究所: 2科目(川崎市)
6. 主婦連合会・製品評価技術基盤機構: 1科目(東京都)
7. 放射線医学総合研究所: 1科目(千葉県)

合計14科目(→7科目) 65

新規の開講

—2011年度関連講座—

1. 早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻 (東京都)
2. 早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻 (東京都)
3. 長崎大学大学院歯学部歯学総合研究科(長崎県)

合計7科目 66

東京23区以外の開講場所

—2011年度共催・関連講座—

- 1. 長崎市
- 2. 鳥取県倉吉市
- 3. 広島県福山市
- 4. 神戸市
- 5. 大阪府八尾市
- 6. 大阪市
- 7. 名古屋市
- 8. 川崎市
- 9. 狭山市
- 10. 千葉市
- 11. 仙台市

2009年度の6か所、2010年度の8か所から
2011年度の11箇所へ拡大

67

開講科目の推移

—2009～2011年度共催・関連講座—

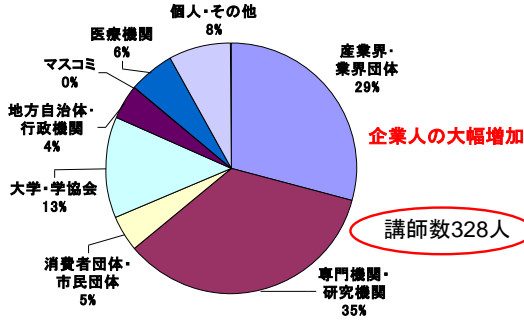
再教育講座	2004～2008年度	221科目	442単位相当
	平均	44科目	88単位相当
知の市場	2009年度	101科目 (119科目相当)	202単位相当 (238単位相当)
	2010年度	78科目 (96科目相当)	156単位相当 (192単位相当)
	2011年度	77科目 (95科目相当)	154単位相当 (190単位相当)

1科目は、90分又は120分講義15回で構成し2単位相当

68

講師の所属分布

—2011年度共催講座—



総合(医療・保健)の上級の講座が共催講座から関連講座に移行

69

応募者・受講者・修了者

—2010年度共催・関連講座—

	科目数	応募者		受講者		修了者*	
		計	科目あたり	計	科目あたり	計	科目あたり
共催講座	37	1147	32	1139	32	262	16
関連講座 (60科目相当)	42	2807	67	2797	67	1170	35
総計 (96科目相当)	78	3954	51	3936	50	1432	29
2004-2008 年平均	44	1203	27	1191	27	661	15

1.8倍 3.3倍 1.9倍 3.3倍 1.9倍 2.2倍 1.9倍

*: 修了者は前期のみ

応募者属性に関する資料収集の状況(1)

—2010年度共催講座—

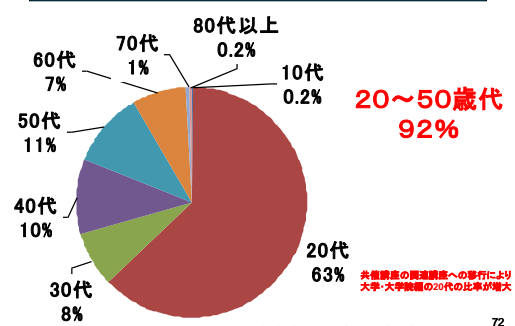
開講機関	男女	年齢	居住地域	職業	学歴	講座の情報量
早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	△	△
日本リスクマネジメントネットワーク/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
ナノテク/ビジネス推進協議会/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
主婦連合会/製品評価技術基盤機構/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
食品薬品安全センター/主婦連合会/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
農業生物資源研究所/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
労働科学研究所/早稲田大学 規範科学総合研究所	○	○	○	○	○	○
東京工業大学 社会人教育院	○	○	○	○	○	○
お茶の水女子大学LWWC(増田研究室)	○	○	○	○	△	△
物質・材料研究機構	○	○	○	○	○	○
化学工学会SCE-Net	○	○	○	○	○	○
鳥取県動物臨床医学研究所	○	○	○	○	○	○
製品評価技術基盤機構/関西消費者連合会	○	○	○	○	○	○
東北大学未来科学技術共同研究センター	○	○	○	○	○	○
放射線安全フォーラム	○	○	○	○	○	○

注: ○:情報が提出されている項目 △:一部のみ提出されている項目
●:氏名のみ出してデータ作成 ○:情報の提供を希望していない項目

71

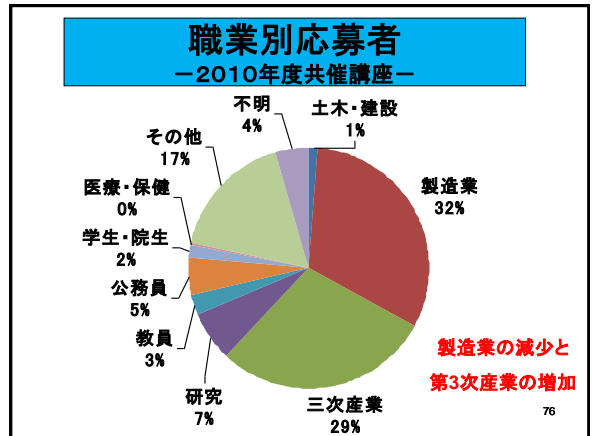
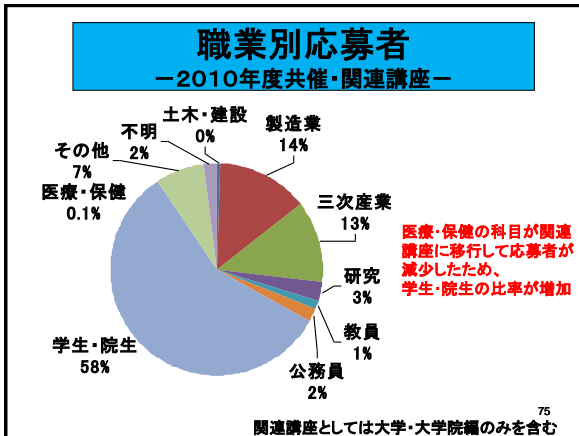
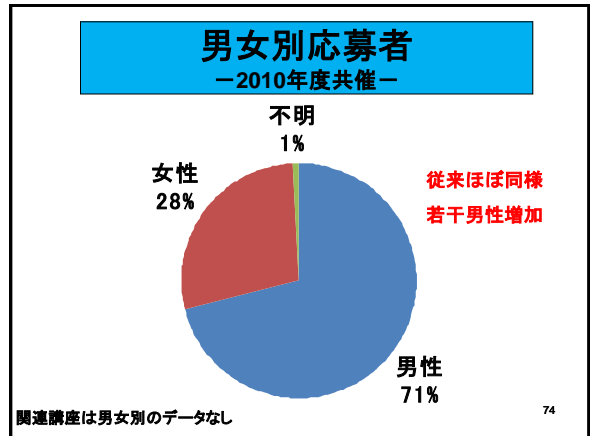
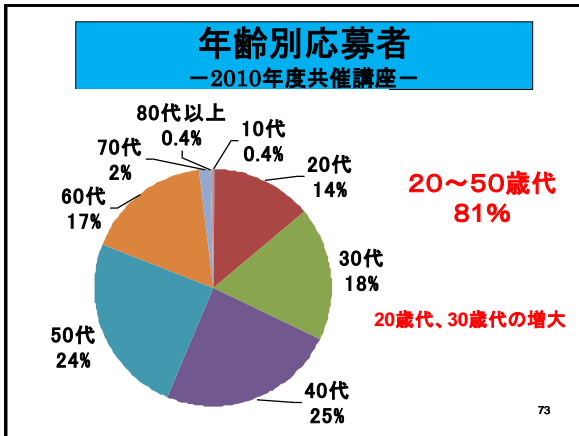
年齢別応募者

—2010年度共催・関連講座—



関連講座は大学・大学院編のみを含む

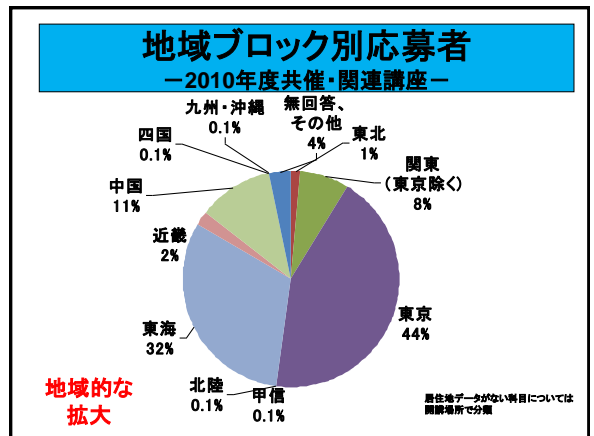
72

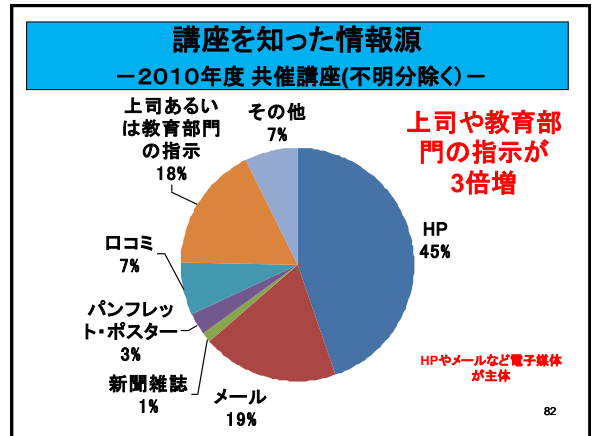
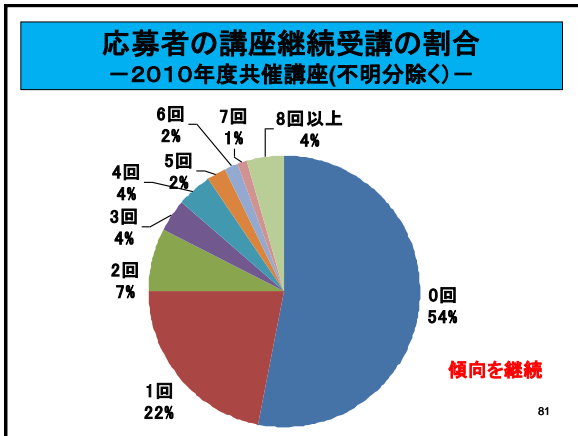
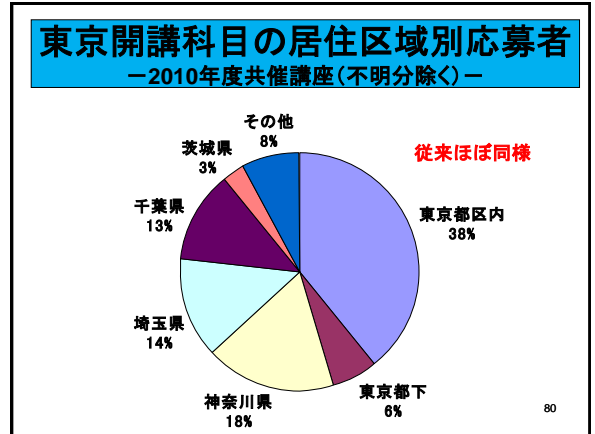
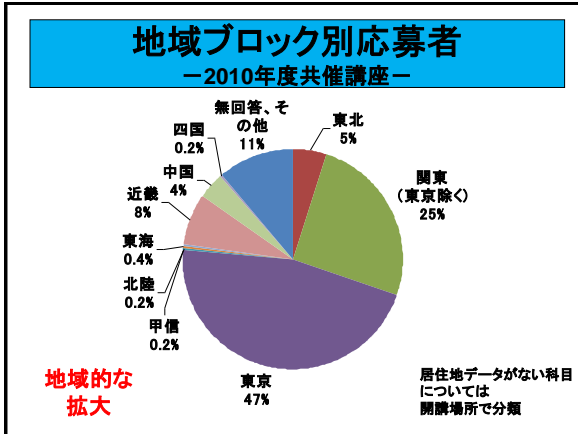


—開講地域ブロック—

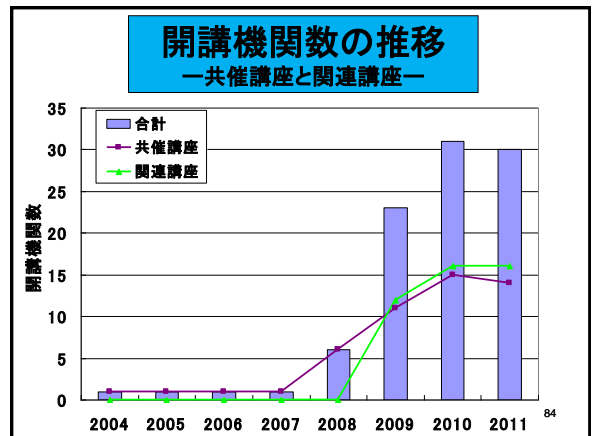
地域ブロック	都道府県
北海道	北海道
東北	青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島
関東(東京除く)	茨城、群馬、栃木、埼玉、千葉、神奈川
東京	東京
甲信・北陸	山梨、長野、新潟、富山、石川、福井
東海	静岡、岐阜、愛知、三重
近畿	大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山
中国	鳥根、広島、鳥取、岡山、山口
四国	香川、愛媛、徳島、高知
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

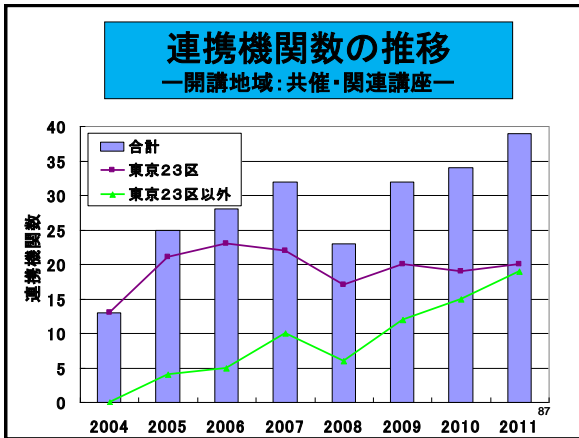
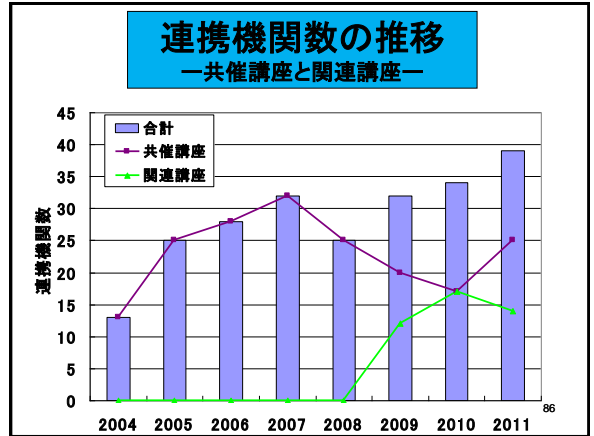
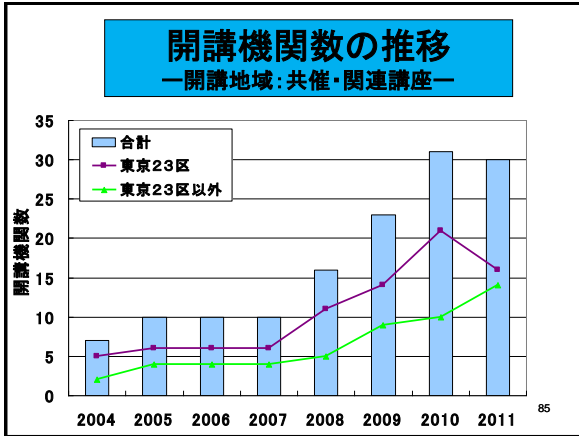
77





Ⅲ. 再教育講座(2004~2008年度)と2009、2010年度の実績の比較





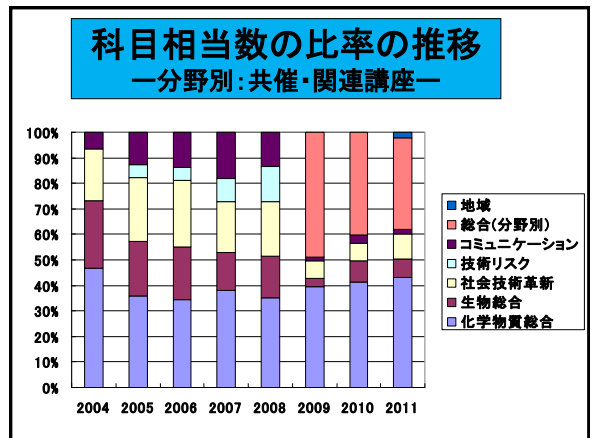
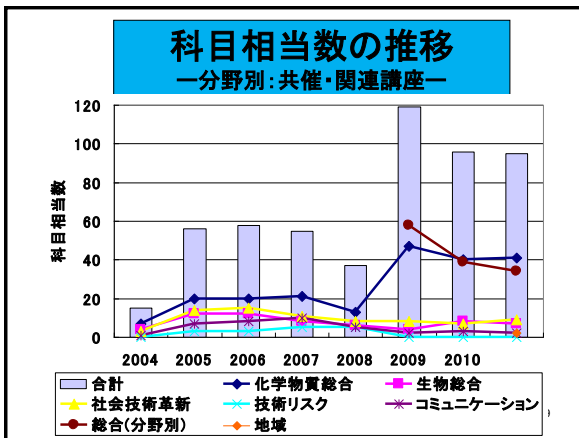
開講科目の推移

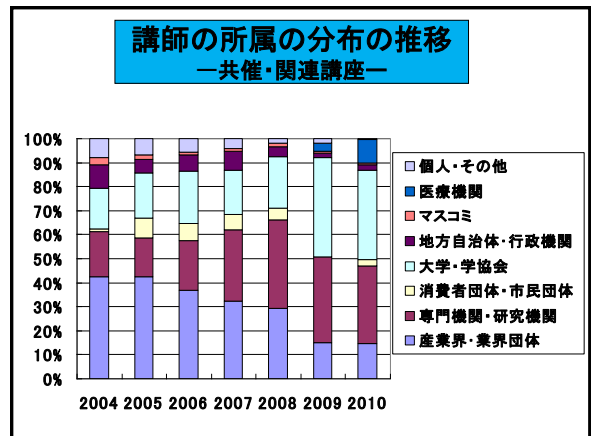
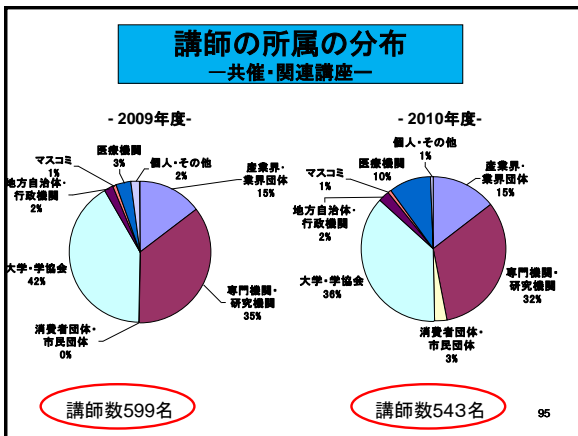
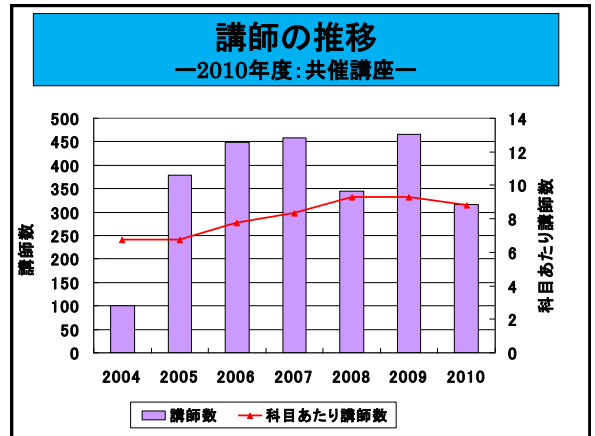
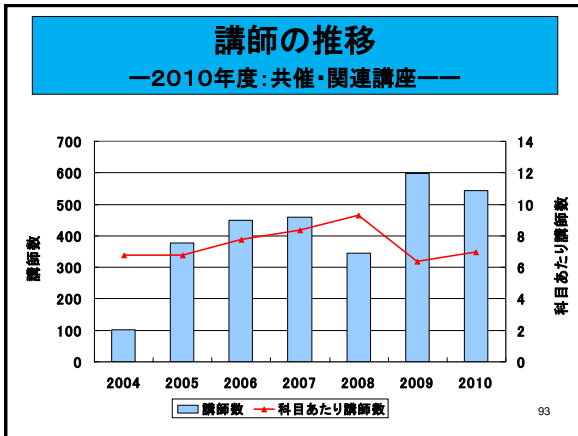
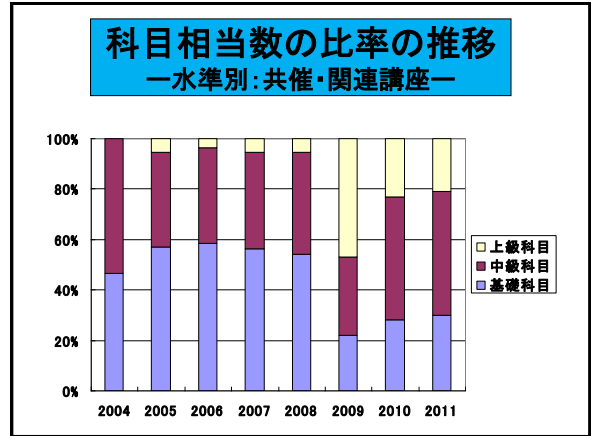
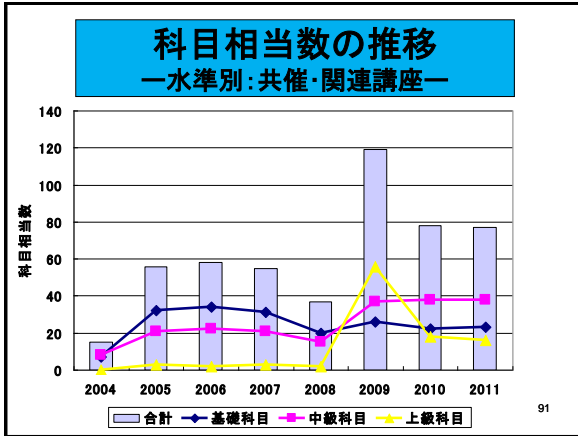
—2009～2011年度共催・関連講座—

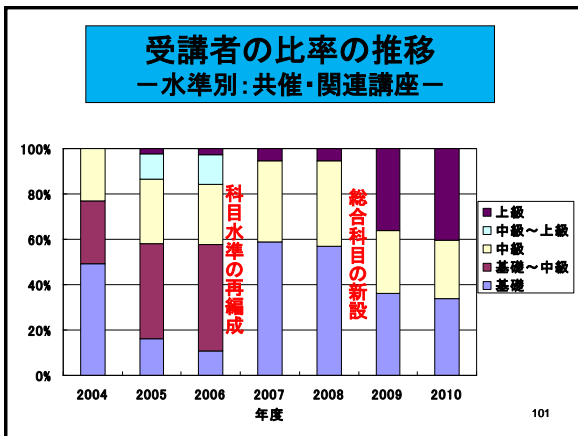
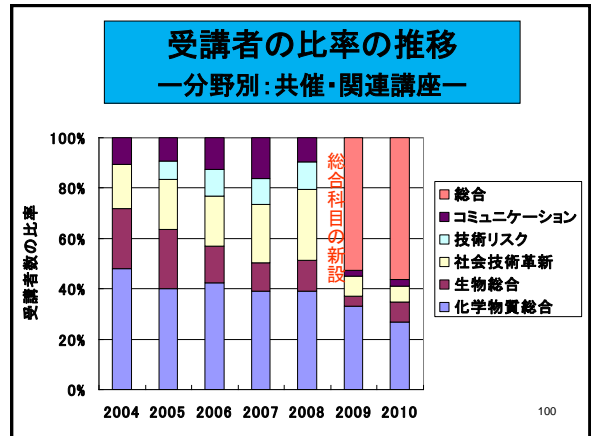
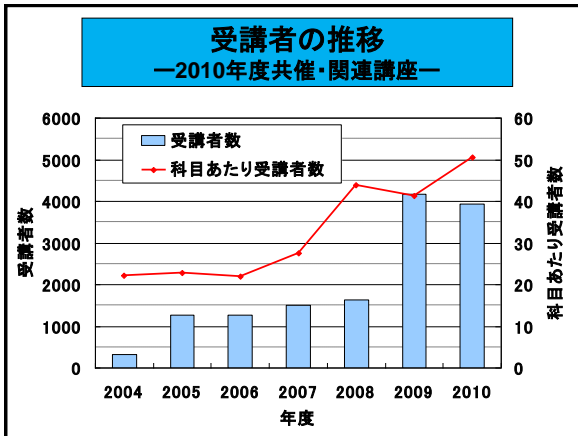
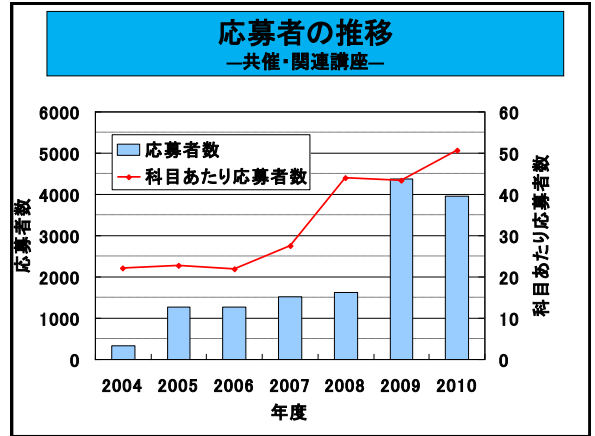
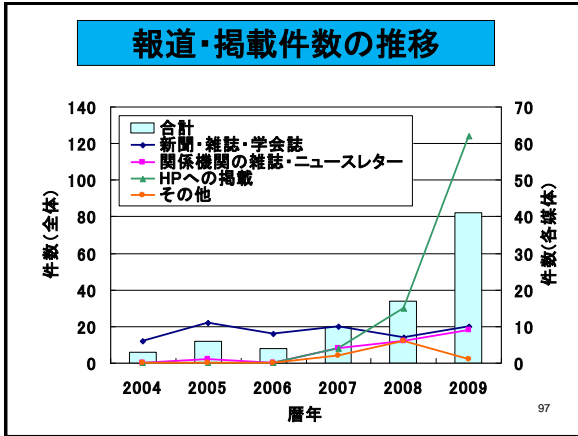
再教育講座	2004～2008年度	221科目	442単位相当
	平均	44科目	88単位相当
知の市場	2009年度	101科目 119科目相当	238単位相当
	2010年度	78科目 96科目相当	192単位相当
	2011年度	77科目 95科目相当	190単位相当

1.8倍 (2009年度 vs 平均) 2.2倍 (2011年度 vs 平均)

知の市場の1科目は120分講義15回で構成し2単位相当







成績評価と受講修了証の発行

年度	科目数	受講者	科目あたり受講者	修了者	科目あたり修了者	修了率
再教育講座	2004	15	332名	22名	234名	16名 71%
	2005	56	1273名	23名	756名	14名 59%
	2006	58	1272名	22名	715名	12名 56%
	2007	55	1516名	28名	770名	14名 51%
	2008	37	564名	42名	832名	22名 53%
	合計	221	5957名		3307名	
	平均	44	1191名	27名	661名	15名 56%
知の市場 2009年度	共催講座	59	2141名	35名	1253名	20名 59%
	関連講座	42	2001名	56名	1228名	34名 61%
	合計	101	4168名	41名	2504名	25名 60%
知の市場 2010年度	共催講座	36	1139名	32名	262名	16名 56%
	関連講座	42	2797名	67名	1170名	35名 55%
	合計	78	3936名	50名	1432名	29名 55%

修了者については2010年度は前期のみの数値

所属組織別の受講者数(上位50組織)
—2010年度共催講座—

所属	延べ受講数	所属	延べ受講数
1 共済労働医療センター	7	18 三菱レイヨン	2
2 坪井動物病院	7	19 三菱マテリアル	2
3 山陽労働医療センター	6	20 東京都北区立滝野川第三小学校	2
4 シヤープ	6	21 凸版印刷	2
5 花王	5	22 群馬県立光が丘第二中学校	2
6 AGCビルディング東京総務部G	5	23 富士ゼロックス	2
7 岡崎労働医療センター	4	24 三菱総合研究所	2
8 鳥取労働医療センター	4	25 サントリー ビジネスエキスパート	2
9 早稲田大学	4	26 BH	2
10 青森労働医療センター-小田動物病院	4	27 日本電工	2
11 内閣府	3	28 矢野学会	2
12 NPO法人市民医学研究家	3	29 群馬県がらぶつ病院	2
13 科学技術振興機構	3	30 大塚動物病院	2
14 ADEKAクリーンエイド	3	31 まつかわ動物病院	2
15 動物臨床医学研究所	3	32 パナソニック	2
16 シンガポ動物病院	3	33 緑やん心臓病	2
17 ヤマハ	3	34 フラワー・ジョルダン社	2
18 鳥獣管理士会	2	35 日本ガス燃焼学会	2
19 日立製作所	2	36 NPO関西消費者連合会	2
20 住友金属工業	2	37 クローバル環境	2
21 森田コンタクト	2	38 イノバ	2
22 NPOニッポンボランティア(継続を祈ります)	2	39 千葉大学	2
23 正木技術士事務所	2	40 環境コントロールセンター	2
24 クボタシーアイ	2	41 千葉県市川健康福祉センター	2
25 動物エコロジーコンサルティング	2	42 群馬県技術振興会連合会	103
26 株式会社一歩事務所	2	43 キューワン	2

所属組織別の受講者数(上位30組織)
—2009年度共催講座—

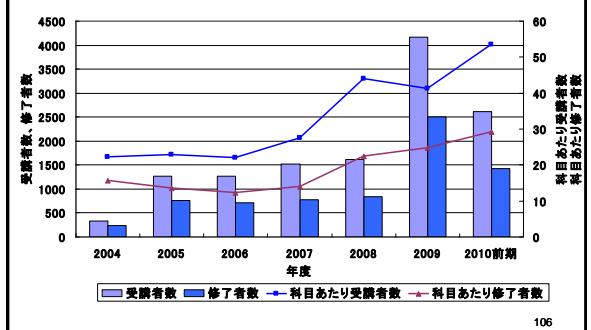
所属	延べ受講数	所属	延べ受講数
1 早稲田大学	9	21 ADEKAクリーンエイド	3
2 花王	8	22 NPO	3
3 東京都北区立滝野川第三小学校	8	23 YKK	3
4 AGC旭硝子	6	24 ユーザイ	3
5 ライオン	6	25 荏原製作所	3
6 関西消費者連合会	6	26 関東石油開発帯石(帯関石油)	3
7 TPOコンサルティング	5	27 サッポロビール	3
8 鳥取県企業連合会	5	28 三洋電機	3
9 都市エコロジーコンサルティング	5	29 市民科学研究所	3
10 日本生活協同組合連合会	5	30 新潟県産農産物連合会	3
11 武田薬工-事務所	5	31 杉並農産所	3
12 オオスミ	5	32 住友ベークライト	3
13 オリジナルイメージング	4	33 環境テクノニクス	3
14 筑波大学	4	34 真光化学工業	3
15 奈良の女子大学	4	35 東京電機工業会研究センター	3
16 キヤン	4	36 東京農工大学	3
17 クボタシーアイ	4	37 東京農工大学	3
18 デュボン	4	38 東京時と境川・利根川・多摩川流域の水フォーラム	3
19 石油資源開発	4	39 日本ビルディング経営センター	3
20 特許庁	4	40 ネオステラ・キャピタル	3
21 農林水産省	4	41 群馬県立光が丘第二中学校	3
		42 茨城県川妻町	3
		43 正木技術士事務所	3
		44 丸紅	3
		45 三谷技術士事務所	3
		46 三菱レイヨン	3

受講者の多い組織上位50傑
—再教育講座2004~2008年度と2009,2010年度別の市場共催講座—

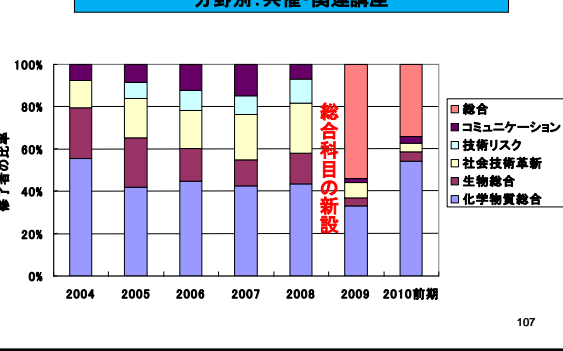
所属	延べ受講者数	所属	延べ受講者数
1 お茶の水女子大学	224	25 高砂製鉄工業	28
2 花王	68	26 一歩	28
3 森田コンタクト	75	27 国土化学工業	28
4 イオン	68	28 東京都理川・利根川・多摩川流域の水フォーラム	28
5 ADEKA/産業化学工業	68	29 三井化学	28
6 化学物質野研研究機構	68	30 シンケンテクノヤン	28
7 東京電	68	31 群馬県技術振興会連合会	28
8 早稲田大学	47	32 池光高等学校	28
9 住友ベークライト	47	33 アリスライオン	24
10 出光興産	42	34 NTTデータ	28
11 特許庁	40	35 情報理工	28
12 キヤン	38	36 ヒダコ油断	28
13 関東石油開発帯石(帯関石油)	38	37 アップビル	28
14 日本化学工業協会	38	38 日産技	28
15 中興農産	38	39 エルピー・ダメモリ	28
16 早稲田大学	38	40 NPO法人市民医学研究家	28
17 大日機化学工業	32	41 住友分析センター	28
18 日本化学工業協会	32	42 都市エコロジーコンサルティング	28
19 東京電	31	43 クラレ	28
20 サッポロビール	30	44 東京都北区立滝野川第三小学校	28
21 鳥獣管理士会	30	45 動物病院工業	28
22 日本生活協同組合連合会	29	46 環境	28
23 日本生活協同組合連合会	28	47 環境管理センター	28
24 日本IBM	27	48 日立化成工業	28
		49 動物病院ケカル	28
		50 産業技術総合研究所	28

プロ教育と教養教育の両面で活用

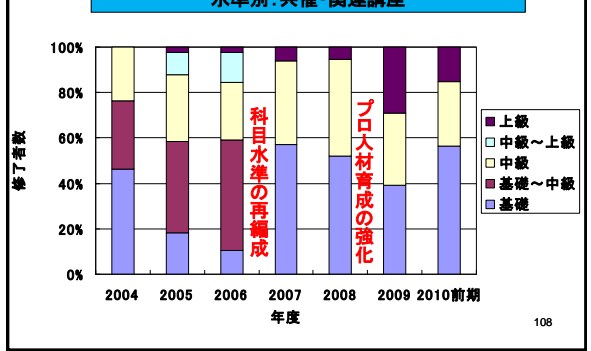
受講者・修了者及び科目あたり受講者・修了者の推移
—共催・関連講座—

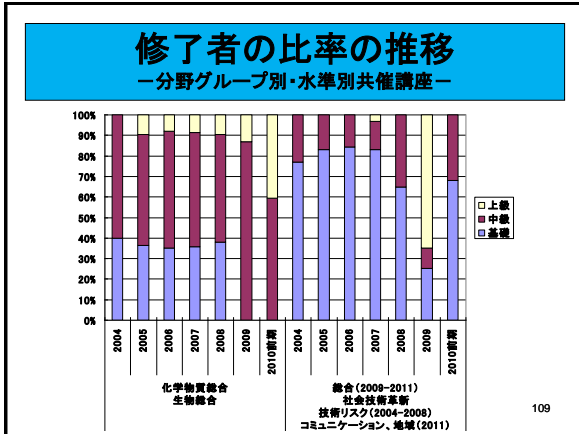


修了者の比率の推移
—分野別：共催・関連講座—



修了者の推移
—水準別：共催・関連講座—





IV. 2010年度の評価

110

受講者の評価 —受講者アンケート集計結果—

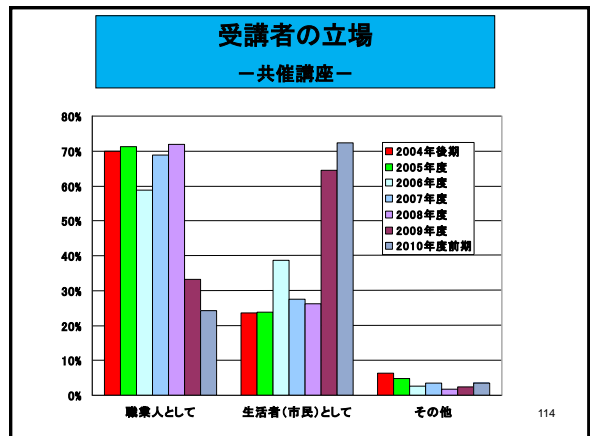
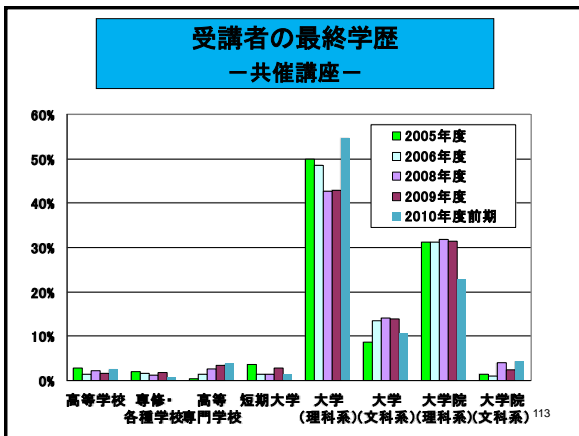
年度	配布数	有効回答数	有効回答率
2004年度後期	332	210	63.3%
2005年度	1273	532	41.8%
2006年度	1272	391	30.7%
2007年度	997	600	60.2%
2008年度	1090	668	61.3%
再教育講座平均	993	480	48.4%
2009年度(共催講座)	935	389	41.6%
2010年度前期(共催講座)	363	178	49.0%

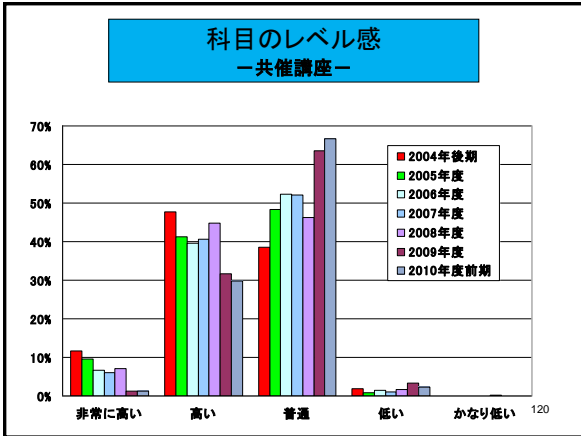
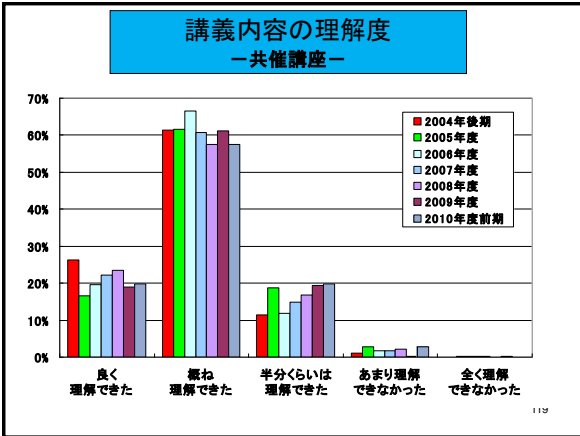
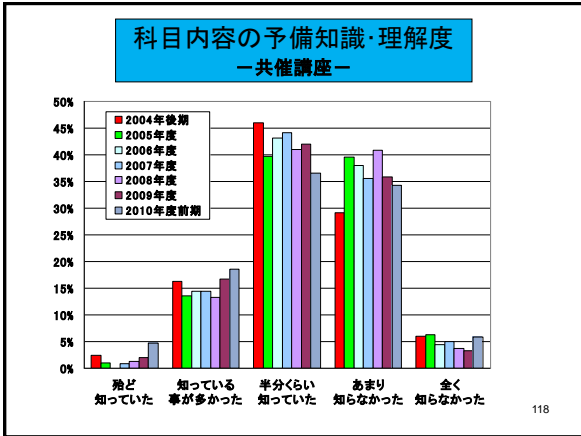
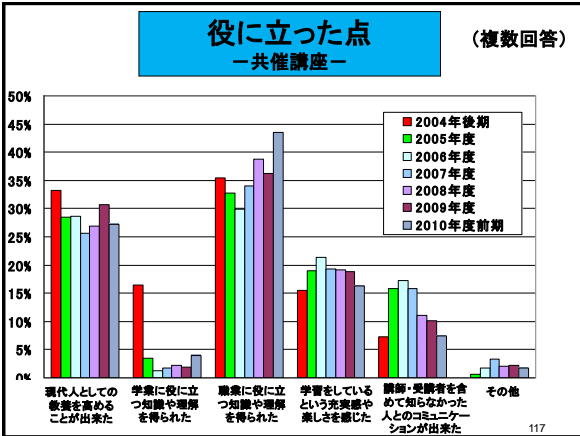
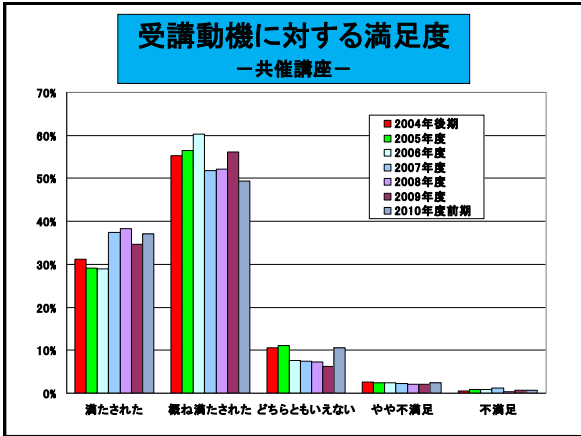
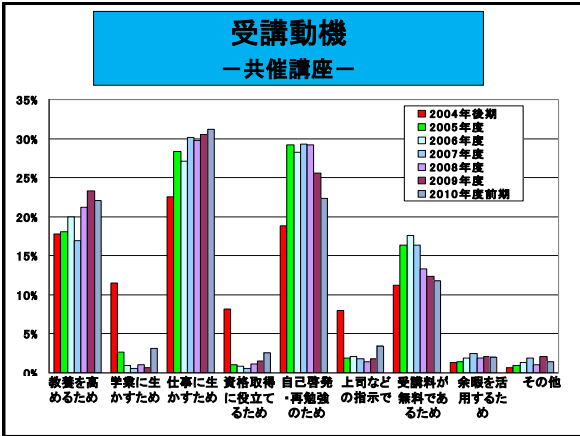
111

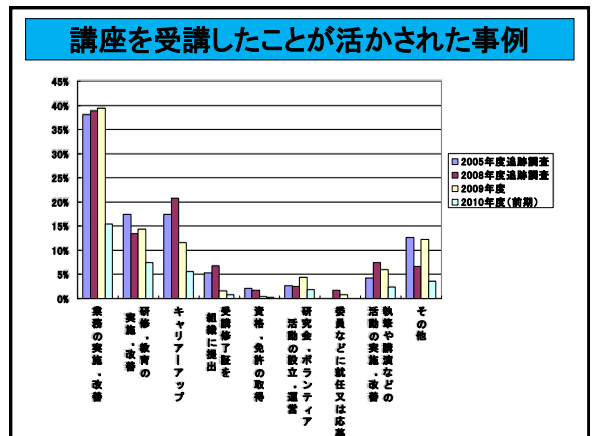
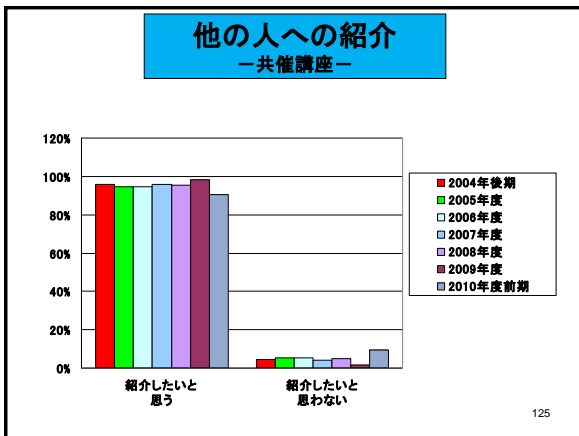
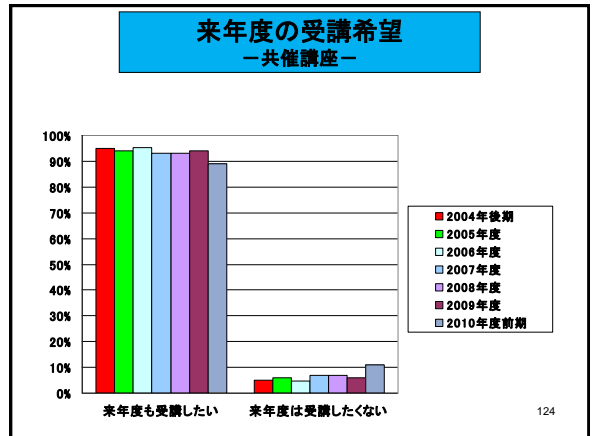
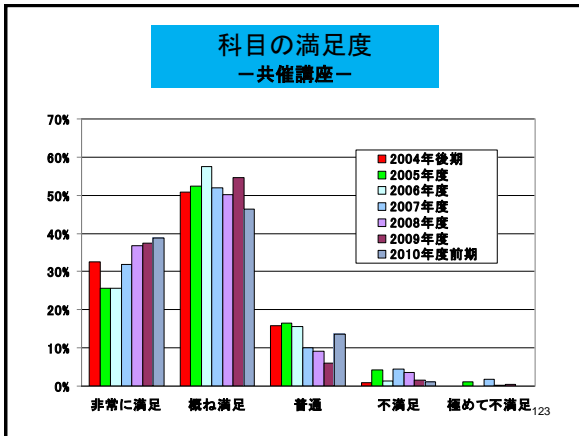
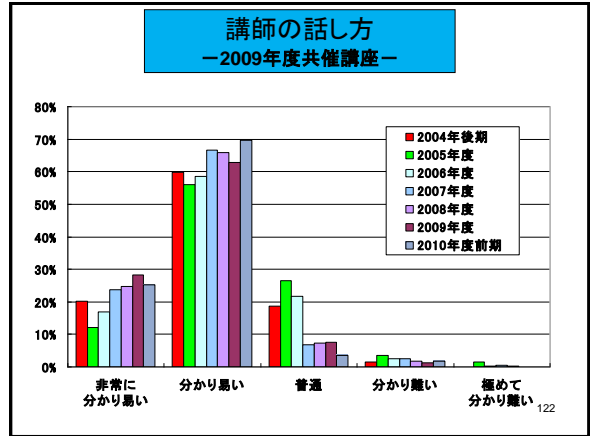
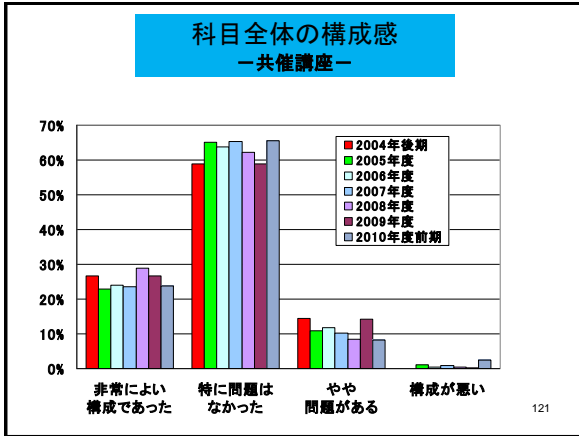
受講者アンケート回答 —2010年度前期共催講座—

開講機関	回答数
早稲田大学 規範科学総合研究所	0
日本リスクマネジメントネットワーク/早稲田大学 規範科学総合研究所	0
ナノテクノビジネス推進協議会/早稲田大学 規範科学総合研究所	0
労働科学研究所/早稲田大学 規範科学総合研究所	0
東京工業大学 社会人教育院	0
お茶の水女子大学LWWC(増田研究室)	0
物質・材料研究機構	0
鳥取県動物臨床医学研究所	0
製品評価技術基盤機構/関西消費者連合会	0
東北大学未来科学技術共同研究センター	0
放射線安全フォーラム	0

112







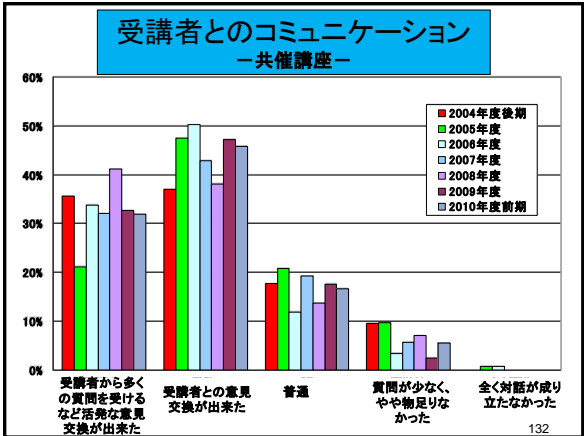
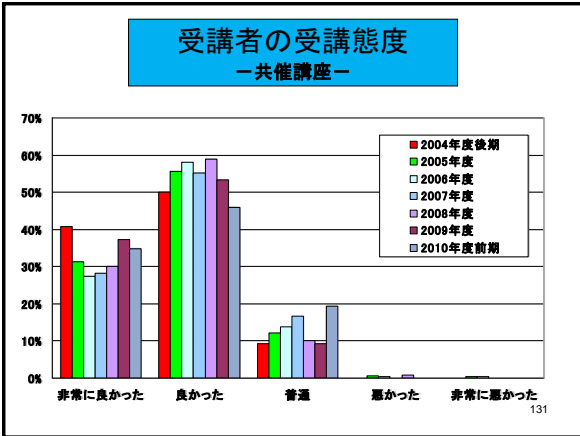
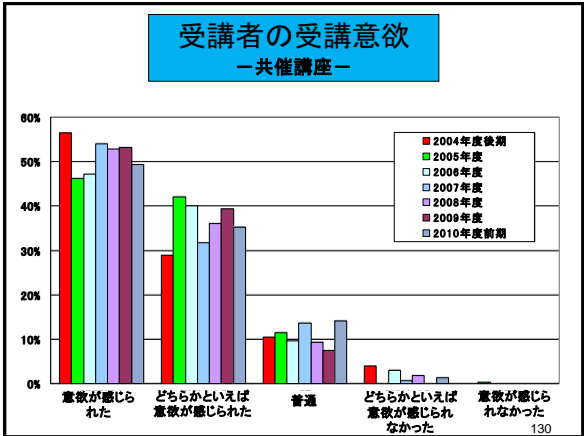
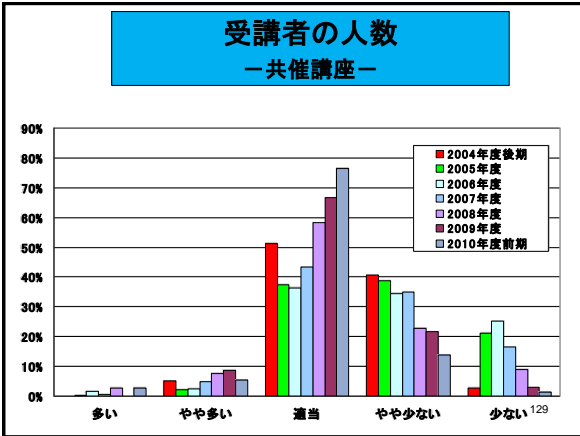
講師の評価 —講師アンケート集計結果—

	配布数	有効回答数	有効回答率
2004年度後期	100	76	76.0%
2005年度	417	288	69.1%
2006年度	494	239	48.4%
2007年度	507	332	65.5%
2008年度	360	226	62.8%
再教育講座 平均	376	232	61.8%
2009年度 (共催講座)	323	162	50.2%
2010年度前期 (共催講座)	106	162	67.9%

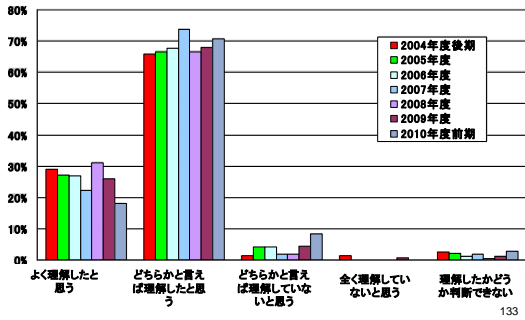
講師アンケート回答 —2010年度前期共催講座—

開講機関	
早稲田大学 規範科学総合研究所	○
日本リスクマネジメントネットワーク/早稲田大学 規範科学総合研究所	○
ナノテクノビジネス推進協議会/早稲田大学 規範科学総合研究所	○
労働科学研究所/早稲田大学 規範科学総合研究所	
東京工業大学 社会人教育院	○
お茶の水女子大学LWWC(増田研究室)	○
物質・材料研究機構	
鳥取県動物臨床医学研究所	○
製品評価技術基盤機構/関西消費者連合会	○
東北大学未来科学技術共同研究センター	
放射線安全フォーラム	

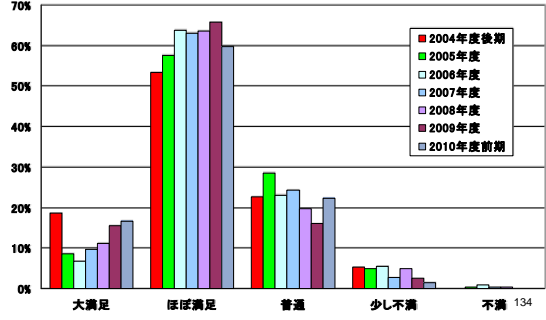
128



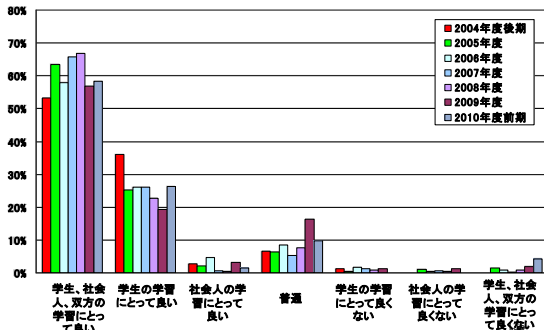
受講者の講義内容における理解度
— 共催講座 —



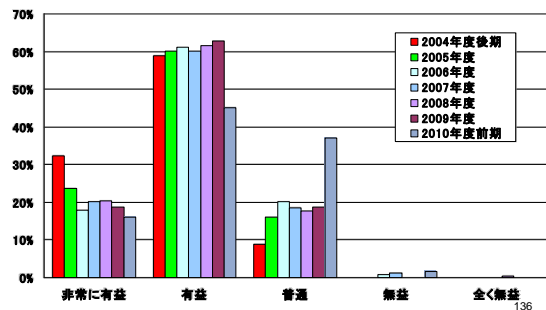
受講者への満足度
— 共催講座 —



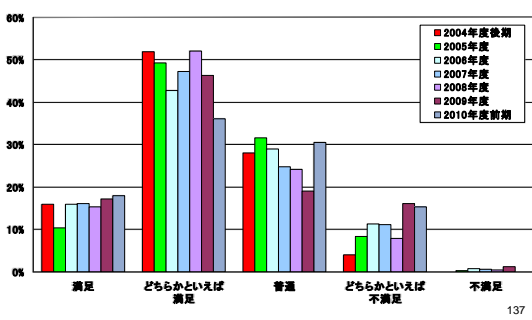
学生の受講
— 共催講座 —



小レポートのコメントの有益性
— 共催講座 —



講義の満足度
— 共催講座 —



寄せられた意見の例
— 2009年度講師 —

1. 高い学習意欲が感じられる質問が多く、熱心であった。
2. 受講者の予備知識に差があるので、話の進め方に行き方に苦労することがある。
3. 社会人で勉学に意欲のある方にとってはとても良い機会である。
4. 熱心に講義を聞いてくれて、レポートも記入時間が少ない割にはきちんと記述されているものが多かった。
5. 一般の社会で生活している方々の素直な意見を聞くことができた。
6. 受講者の幅が非常に広く、課題は受講者に考えてみて欲しい内容としている。それに答えて記述してくれているものも多く、それぞれの受講者の考えを知る機会を得て有益だった。
7. 現場経験があったり、必要に迫られて受講している人が多いため、講義に対する真剣さが伝わってきた。
8. 皆、それぞれの持ち場でがんばっている方々であり、講義するほうとしてもよい意味での緊張感を持てた。
9. 仕事で忙しい中、時間を割いてくれる人には、目的・意欲があてきてきている人が多いためか、真摯な態度が感じられた。それぞれの受講生が進んできたバックグラウンドにより質問や感想が異なり、興味深かった。

V. 今後の展開

139

知の市場の今後の展開

恒常的な教育内容の向上
と
全国の地域が参画する教育

140

知の市場の今後の展開

1. 分野の拡大と連携機関の拡充

- 1) 現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会の提供
- 2) 多様な連携機関の参画を拡大し、多様な講師による多岐にわたる科目の開講

2. 全国展開と開催機関の拡充

- 1) 自己研鑽の機会の日常化と普遍化を促進

3. 地域展開

4. 全国配信

5. 出版・電子出版

津々浦々の
教育参画

参加機関の今後の課題

—開講機関と連携機関の検討のために具体例—

1. 全機関の課題

- 1) 機関の垣根を越えた協働・協力関係の構築
- 2) 自立的な活動の強化・拡充

2. 教育機関(大学・大学院)の課題

- 1) 大学・大学院の履修科目とし単位取得の対象として活用
- 2) 社会人への修士号・博士号の授与に活用
- 3) 社会人への学校教育法に基づく履修証明書の交付に活用



恒常的な教育内容の向上

完

143

【知の市場会長】

増田 優

お茶の水女子大学

ライフワールド・ウォッチセンター教授
早稲田大学客員教授・明治大学客員教授

人間文化研究科棟 4階404号室

電話 & FAX: 03-5978-5092

E-mail: masuda.masaru@ocha.ac.jp

【参考図書:増田分】

1. 化学物質を経営する
(化学工業日報社 ISBN978-4-87326-500-1-C0034)
2. 「知の世界」が創る政策の新展開
(化学工業日報社 ISBN4-87326-436-7-C0034)
3. 化学物質総合管理、71-84頁、地球環境の化学
(朝倉書店 ISBN4-354-25599-3)
4. 機能性化学
(化学工業日報社 ISBN4-87326-394-8-C3040)
5. 化学は地球を救えるか
(化学工業日報社 ISBN4-87326-246-1-C3034)
6. OECDと日本のバイオテクノロジー政策
— 科学的方法導する安全論議 — (バイオインダストリー協会)

知の市場

ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>

社会技術革新学会

ホームページ <http://www.s-innovation.org/>

化学生物総合管理学会

ホームページ <http://www.cbims.net/>
*** <http://www.cbims.net/doc/page1.cgi>

146

終

147